

教育子午線

Kyoiku-Shigosen

October
2008

30th
Anniversary
兵庫教育大学
vol.18

●創立30周年特別企画

講演会や音楽会、美術展など多彩な内容で
創立30周年記念行事を開催します
座談会、地域の大学として兵庫教育大学に求められるもの

●教育最前線
今こそ情動知能の育成が必要

●研究レポート

社会文化的アプローチに基づく
英語科教師の学びの研究

●私たちの先生

天根哲治准教授(基礎教育学系)

●キャンパス通信

●うれしの交差点

ルポ:地域子ども教室

平成18年12月22日に全面改訂された新しい教育基本法では、「我が国の伝統と文化の教育」が次のように定められています(第2条第5項)。

「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」

我が国の伝統や文化の尊重と、それをはぐくんできた国や郷土に対する愛情、そしてその基盤の上に立って他国とその伝統や文化を尊重することが、日本の新しい世代に求められているのです。

何よりもまず、日本社会で生い育つ人にとって文化的伝統そのものと言ってよい母語(日本語)の能力をきちんと身に付けていかなければ、認識も思考も判断も、そして他者との伝え合いも不可能です。また、自分の生きている場の伝統や文化から学び、それを身に付けていくことは、成長発達していくうえでの基盤づくりと言ってよいでしょう。そして、人として真に強靱で豊かになるためには、先人たちがいかに伝統や文化を継承し発展させてきたか、ということから深く学ぶ必要があると思います。

我が国の伝統と文化の教育

自分の生い育っていく社会の伝統や文化について教育を受けるということは、本来、当然過ぎるくらい当然のことです。しかしながら、この当たり前のことがことさらに等閑視されてきたのが、戦後の日本社会の悲しい実情です。

昭和20(1945)年8月15日の敗戦以降、アメリカを中心とした連合軍による6年近くの占領政策があり、また今日に至るまでその思想的影響が色濃く残る中で、我が国の伝統や文化の教育については、どこか遠慮して敬遠する、ひどい場合には「戦前の社会に戻る!」といっ

たかたちで反対する、といった空気が続いてきました。このため日本の教育者の中にも、デュイイは知っているが本居宣長の「初山踏み」などは耳にしたこともない、という恥ずかしい人たちが少なからず存在します。遅まきながらも、やっとなかなかたちで伝統や文化の教育の重要性が宣言され、再確認されたのは喜ばしいことです。

こうした新教育基本法を踏まえ、小中学校の新たな学習指導要領も告示されました。戦後の日本社会が引きずってきた根本の歪みをなんとか是正していきたいものです。



学長 梶田 叡一

6月

2日~24日

◎学校管理職・教育行政職特別研修1期(全5回)

7日~11月22日

◎兵庫教育大学単独主催の研修講座(全23講座)

14日、28日

◎大学院学校教育研究科説明会(神戸)

23日~25日、27日

◎大学院オープンキャンパス

25日

◎兵庫教育大学創立30周年記念事業協賛会からの目録贈呈



7月

5日

◎大学院学校教育研究科説明会(大阪、東京)

10日~11日

◎附属幼稚園「わくわくキャンプ」



11日

◎名誉教授称号授与式、名誉教授会

12日

◎大学院学校教育研究科説明会(神戸)

18日

◎附属幼稚園・小学校・中学校第1学期終業式

20日

◎学校教育学部オープンキャンパス
◎創立30周年記念ソフトボール交流大会



20日~22日

◎附属小学校6年生臨海合宿

22日

◎ベネッセ教員育成研究奨学生決定通知書交付式

8月

4日~6日

◎公開講座「簡単ロボット製作で学ぶコンピュータの仕組みと制御」(全3回)

8日

◎公開講座「“コミュニケーション”を問い直す—信頼し合える人間関係を築くために—」

9日~10日

◎兵庫教育大学免許状更新講習(試行)

11日~31日

◎兵庫教育大学免許法認定公開講座(全5講座)

23日~24日

◎大学院学校教育研究科(修士課程・専門職学位課程)前期選抜試験

30日~10月4日

◎公開講座「ガムランはともだち」(全6回)

9月

1日

◎附属幼稚園・小学校・中学校第2学期始業式



1日~2日

◎附属小学校4年生自然学校



6日~7日

◎公開講座「地域理解のための地図作成の基礎技術—コンピュータ・マッピングによる主題図作成—」(全2回)

13日

◎附属中学校体育祭

13日、27日

◎大学院学校教育研究科説明会(神戸)

20日

◎大学院学校教育研究科説明会(大阪、東京)

27日

◎附属小学校「うれしのカーニバル」

27日~28日、10月4日~5日

◎公開講座「絵画制作」(全4回)

【目次】

Contents

04

創立30周年特別企画
講演会や音楽会、美術展など多彩な内容で
創立30周年記念行事を開催します

06

座談会
“地域の大学”として
兵庫教育大学に求められるもの

08

教育最前線
今こそ情動知能の育成が必要

12

研究レポート
社会文化的アプローチに基づく
英語科教師の学びの研究
吉田達弘(社会・言語教育学系准教授)

13

教育時事一問一答
教員の著書紹介

14

私たちの先生
天根哲治准教授(基礎教育学系)

15

卒業生からの手紙

16

キャンパス通信

18

うれしの交差点
ルポ:地域子ども教室

20

兵庫教育大学からのお知らせ

October, 2008

教育子午線
Kyoiku-Shigosen

講演会や音楽会、 美術展など多彩な内容で 創立30周年記念行事を 開催します



11 フォーラム

「見つめよう 加東の歴史と文化」

加東市協賛事業。地域の歴史・文化の継承と保存をテーマに講演会とフォーラムを開催します。

回11月29日④13:00～17:00 所加東市滝野図書館 講師／河村昭一教授、市民代表 関一般 関80人

創立30周年
特別企画



12 同窓会研究会

大学院同窓会主催の記念協賛事業。同窓生たちが「本学30年のあゆみとこれからの日本の教育」をテーマに議論します。同窓生有志による「21世紀の教育への提言 現場からの教育改革(第2集)」の発行も。

回10月11日④11:00～12:00 所加東キャンパス バネリスト/上寺久雄(兵庫教育大学第2代学長)、武泰稔(岡山県矢掛町教育委員会教育長)、池田芳和(東京都港区立御成門小学校長・全国連合小学校長会会長) 関兵庫教育大学大学院同窓生、大学院生

13 チアリーディング演技会&よさこい演舞会

加東市協賛事業。兵庫教育大学のチアリーディング部とよさこい部「チーム鬼灯」に加え、他大学や高校、社会人のチアリーディングチーム、加東市のよさこいチームも出演し、ダイナミックなステージを披露します。会場全体でよさこいの総踊りも。

回11月2日④13:30～16:00 所加東市滝野総合公園体育館スカイピア 関一般 関200人

14 オーケストラと音楽分野教員とのセッション

加東市協賛事業。加東フィルハーモニー管弦楽団のオーケストラと兵庫教育大学・木下千代准教授のピアノが競演。

回11月23日④14:00～(13:30開場) 所加東市東条文化会館(コスミックホール) 曲目/ピアノ協奏曲第20番(モーツァルト)、くるみ割り人形組曲、ダッタン人の踊り(ポロディン)など 出演/加東フィルハーモニー管弦楽団、加東市バイオリン教室受講生、木下千代准教授 関500円(前売り券発売中) 関一般 関500人

●小野市地域連携推進事業

小野市と連携し、地域の学校教育、生涯学習、福祉の振興と発展を目的とした事業を実施します。

●国際シンポジウム2008 「教員リカレント教育の新たな可能性を求めて」

創立30周年記念関連事業。教育・社会調査研究センター主催。韓国、中国、米国の教員養成大学の教授らを招き、教員の再教育について議論します。参加申し込みについては20ページをご覧ください。

回10月26日④10:00～16:00 所神戸新聞松方ホール(神戸市中央区) 内容/基調講演「日本の教員リカレント教育への視座」(講師:梶田毅一学長)、指定発言、シンポジウム第1部「大学院における教員リカレント教育の現在」、第2部「未来を語る」 関教員、一般 関500人

◎各行事の問い合わせ先・

参加申し込み先(5⑥～11)

1～4⑫総務課

TEL 0795・44・2333 FAX 0795・44・2009

5教育支援課

TEL 0795・44・2322 FAX 0795・44・2039

6～11地域交流推進センター

TEL 0795・44・2053 FAX 0795・44・2409

13学生支援課

TEL 0795・44・2050 FAX 0795・44・2049

14(財)加東市文化振興財団

TEL 0795・42・7700 FAX 0795・42・7233



皆さまの参加を
お待ちしております

学長
梶田毅一

兵庫教育大学は今年10月で創立30周年を迎えました。今日まで「新しい構想による教員養成大学」という創設の趣旨に沿って、教員の資質能力の向上に資する理論的かつ実践的な教育研究を推進するとともに、博士課程や教職大学院の設置などの先導的な取り組みを実施し、多くの成果を挙げてきました。これもひとえに皆さまのご支援、ご協力の賜と深く感謝しております。

創立30周年を記念して、加東市と加東市商工会が中心となって発足した「兵庫教育大学創立30周年記念事業協賛会」と大学との共催行事をはじめ、北播磨5市1町(西脇市、三木市、小野市、加西市、加東市、多可町)での特別公開講座、小野市との地域連携推進事業など、地域とより連携した行事を数多く企画しました。皆さまのご参加を心からお待ちしております。

① 記念講演会

② 記念式典

① 劇作家、評論家としても活躍されている中央教育審議会会長、山崎正和さんが「教育と読書」をテーマに講演します。

回10月11日④ ①13:00～14:30 ②14:45～15:30 所加東キャンパス講堂 講師/山崎正和さん(中央教育審議会会長) 関一般、大学関係者 所500人



③ 記念音楽会

クラリネットを中心としたウィンドオーケストラを特別に編成。一流ソリストと音楽専攻の学生を主体とした合唱団、オーケストラの総勢200人のアンサンブルをぜひ聴いてください。

回10月11日④16:30～17:30(16:00開場) 所加東市やしろ国際学習塾L.O.Cホール 曲目/「大学祝典序曲」Op.80(ブラームス)、交響曲第9番「合唱」Op.125より「終楽章」(ベートーヴェン) 出演/藤井一男(指揮)、垣花洋子(ソプラノ)、伊原直子(アルト)、保坂博光(テノール)、野本立人(バリトン)、兵庫教育大学合唱団、兵庫教育大学ウィンドオーケストラ 関一般 所500人



④ 記念美術展

美術分野の教員が手掛けた絵画や彫塑、オブジェなど約20点を展示します。加東市内2カ所で開催。

回10月11日④～13日⑤⑥・16日⑦～20日⑧ 9:00～18:00 所加東市やしろ国際学習塾
回10月22日⑨～26日⑩10:00～17:00 所加東市滝野図書館ギャラリー 出展教員/杉山直樹教授、初田隆教授、村上裕介准教授、大西久准教授、前芝武史准教授 関一般

⑤ 大学公開イベント

加東キャンパスで子どもやファミリー向けの多彩な体験プログラム、高校生対象のオープンキャンパスなどを開催。イベントの詳細、参加申し込みの方法については19ページをご覧ください。

回10月13日⑪⑫10:00～15:00 所加東キャンパス 内容/わくわく理科、体験!おもしろ技術教室、親子でそば打ち、箏を弾いてみよう、ニューススポーツ体験、オープンキャンパスなど 関一般

⑥ 特別公開講座

「北播磨における特別支援教育を考えるシンポジウム」

兵庫教育大学の特別支援教育の研究者と北播磨の教育関係者らが、特別支援教育の現状と方向性についてディスカッションを通して考えます。

回10月13日⑬⑭13:30～16:30 所加東キャンパス 関一般、教員 所100人

⑦ 特別公開講座

「子育て関連出前講座」

加東市協賛事業。子育てに関する講座を加東市内3カ所、4つのテーマで開催します。

回10月18日⑮10:30～12:00 所滝野児童館 ぎらら テーマ/子育てを楽しもうよ、お父さん!お母さん! 関乳幼児の保護者 所30人

回11月5日⑯10:30～11:30 所東条公民館 テーマ/親子でふれあい体操!ワン・ツー・スリー 関2～3歳児とその保護者 所30人

回11月26日⑰ 所社児童館やしろこどものいえ ①11:00～12:00 テーマ/ひろば子育て講演会 関1～2歳児とその保護者 所30人 ②13:30～15:00 テーマ/子育て支援講演会 関児童館スタッフ、子育て支援の指導員 所20人

⑧ 特別公開講座

「中学生のためのキャリアフェア」

加東市協賛事業。中学生がさまざまな職業を知ることで、教科と職業との関連性について考えます。

回11月1日⑱9:00～12:00 所加東キャンパス 関加東市立3中学校の1年生(受け付け終了)

⑨ 特別公開講座

「子育て・躰をことばから」

言葉に視点を置いて子育てや子どもの躰(しつけ)について考えます。

回11月3日⑲⑳13:30～15:00 所アステシアかさい3階多目的ホール 関一般 所100人

今年10月、兵庫教育大学は創立30周年を迎えるにあたり、「未来を担う教師を創る」をテーマに、加東市を中心に各所でさまざまな記念行事を開催します。音楽会や美術展、体験イベントなど地域のみなさんが楽しめるものも多数あります。家族やグループで、ぜひ参加してください。

回…日時 所…場所
関…対象 所…定員
⑬以外は参加無料



—— 最近の兵庫教育大学の地域に対する取り組みについて、どのような感想をお持ちですか。

阿江 加東市のケーブルテレビで公開講座を案内されたり、放送大学で大学の先生方の講義を放送されたりと、情報発信に力を入れている感じがします。

梶田 本学は30年前、全国の現職教員の再教育を行う新構想大学として開学しました。常に教育界の発展に目を向けてきましたが、4年前の法人化を機に、地域貢献活動にも一層注力するようになりました。現在は、市民向けの公開講座や、大学教員が地域の学校や生涯学習の場に講師として出向く「スクール・パートナーシップ事業」などを積極的に展開しています。

—— 池町さんは公開講座を受講されていますね。

池町 4年前、2人の子ともが大きくなり、自分の時間ができたので、初めてピアノの講座を受けました。現在はテニスの講座を受講しています。公開講座のおかげで心の豊かさを取り戻せたように思います。受講を通して、兵庫教育大学には素晴らしい先生がたくさんいらつしやることを知りました。

梶田 本学には約170人の教員がおり、それぞれの分野の第一線で活躍しています。

宮崎 おそらく産業に精通した先生もいらつしやると思いますが、商工会としては企業の活性化に関する研究データやアドバイスをいただけるとありがたいです。

たいですね。

梶田 なるほど。例えば、食育の研究者と食品業界がつながりを持てるかもしれないですね。産学連携の強化は本学の課題の一つです。

宮崎 以前、私が所属する小野ロータリークラブでは兵庫教育大学の留学生との交流会を開催しました。ロータリーには中国語を勉強したいという人が多く、生きた中国語に触れられたことを喜んでいました。

阿江 そういう意味では、例えば中国進出を考えている企業が中国人留学生を招いて社員の語学教室を開くなど、企業活動に生かすことも考えられますね。

梶田 本学の留学生は中国や韓国、イ

ランなどアジア系が多いです。アジア諸国の市場を知るには現地の役所よりも、留学生に聞く方が庶民レベルで知ることができると思います。マーケティングの把握にも役立つのではないのでしょうか。

宮崎 確かに、企業にとって留学生との交流から得られるものは大きいかもしれません。商工会としても考えてみる価値はありそうですね。

梶田 加東市国際交流協会の協力のもと、年に1回、留学生と地域の方々の交流会を開いています。企業の方も参加すれば、留学生にこんな人材がいるのかという発見もあると思いますよ。

—— 阿江さんのお子さんは附属中学校に通われていますね。学校教育に望むことはありますか。

大学の研究を地域の公立学校でも実践してほしいです…池町さん



あ え かつ ひ こ
阿江克彦さん
加東市商工会理事、阿江ハンカチーフ(株)代表取締役社長。加東市在住。
大学とのかかわり…附属中学校に通う3年生と1年生の父親。18年度の附属小学校PTA会長。

座談会

「地域の大学」として
兵庫教育大学に
求められるもの

出席者●阿江克彦さん(加東市商工会理事)、池町順子さん(主婦)、宮崎良平さん(加東市商工会副会長)、梶田敬一(学長)
進行●長尾義人准教授(体育芸術教育学系。本誌編集委員)

全国の大学では地域住民や自治体、企業などと連携して社会貢献活動に力を入れており、兵庫教育大学でも公開講座やスクール・パートナーシップ事業などを展開しています。さらに地域に開かれた存在となるためには、今後どのような取り組みが必要か。兵庫教育大学とのかかわりのある3人をお招きし、梶田学長と語り合っていました。

（ 現職教員が企業の実態に
触れる機会があってもいいのでは…宮崎さん ）



阿江 2人の子どもは幼稚園から附属ですが、附属学校が先進的なカリキュラムを導入していることは保護者としても興味深いですね。また、「人間として生きぬく力を育てる」を教育目標に掲げ、子どもの自主性を重んじる小学校の方針は好感が持てます。

池町 大学にとって研究実践の場が附属学校だと思いますが、ぜひ公立学校でも試してほしいですね。学校の先生は忙しいので、新しいことを一から始めるのはしんどいと思います。でも、大学から指導方法についてのある程度の骨組みを提案してもらえれば、先生は自分を取り入れやすい部分をチョイスして応用できるのではないのでしょうか。それによって授業の質が上がり、大学には公立学校での実践データも蓄積されると思います。

梶田 非常に参考になるご意見ですね。スクール・パートナーシップ事業は本学の研究を公立学校の先生に紹介する方法の一つで、大学教員が地域の学校

などに出向いて指導方法などを講義しています。また、附属幼稚園、小学校、中学校では研究発表会を開いており、例年、小学校の場合は全国から千人もの先生が来られます。

宮崎 教育現場は、一般社会とは別世界の部分があるように思います。現職教員である大学院生が企業の実実を知り、実際の経済活動を肌で感じる機会があってもいいのではないのでしょうか。

梶田 中学生が地域で社会体験する「トライやる・ウィーク」の先生版ですね。こういう機会が必要だという声は教育界でも挙がっているのですが、まだ実現には至っていません。しかし、本学は教員養成において常に先進的な取り組みをしてきました。ご意見を受け止め、検討していきたいと思っています。

——「地域に開かれた大学」をめざすうえで、何が必要でしょうか。

阿江 やはり学生にもっと地域活動に参加してもらいたいですね。

梶田 本学では4年前から、学生のボランティア活動を単位化できる授業「ボランティア体験学習」を始めました。これからは地域で活動する学生は増えていくと思います。

池町 私は人が地域を育て、地域が人

を育てると思います。大学では公開講座のほかにも、演奏会や美術展などの文化的なイベントも多く開催されていますが、まだまだPR不足の感があります。演奏会や美術展のチケットやチラシを地域や企業で配ってもらうといった発信の仕方もあるのでは。

梶田 近年、公開講座などの広報に力を入れてきましたが、もう一步、踏み込んだPRが必要ということですね。

——兵庫教育大学がさらに地域に根差していくためには、どのような取り組みが考えられますか。

阿江 大学と地域がもっと歩み寄ることにつながりは深まると思います。せっかく大学があるので、地域住民は大学の知的財産を有効に活用させていただくべきです。

梶田 現在の公開講座はスポーツや芸術関係が充実していますが、今後は地域の人も検討したうえで、もっとアカデミックな内容のものも開講できればと考えています。

阿江 団塊世代が定年を迎えています。講座の内容によっては平日でも受講生は集まると思います。

梶田 大学のみならず、近隣のいくつかの文化施設で開講すれば誰もが通いやすいと思います。30周年記念事業で

も、美術展や公開講座を加東市内数カ所で巡回するかたちで開催します。

宮崎 「教育大学」というと、教育関係者のみの大学という印象を抱いてしまいます。地域住民にとって身近な存在であることを知らせる方法の一つとして、多彩な分野の教員の方がそろっていることをもっとアピールしてはいいかがでしょうか。

梶田 そうですね。スクール・パートナーシップ事業の案内パンフレットには教員のリストを掲載していますが、そういう媒体をフルに活用していきたいです。

阿江 大学ホームページの検索機能を充実させて、学びたいことや相談したいことを入力すれば、それに最適な教員の紹介ページにつながるというのはどうでしょうか。

梶田 ほかにケーブルテレビで教員の活動を紹介する番組を制作するのも一つの方法ですね。

——今あるツールを最大限に活用して、地域の方々が利用しやすい大学であることをもっとアピールする必要がありますね。みなさんからいただいたご意見は、今後の地域貢献活動の一つの指針になると思います。本日はどうもありがとうございました。

（ 地域住民は大学の
知的財産を進んで活用すべきです…阿江さん ）



みやざきりょうへい
宮崎良平さん

加東市商工会副会長、㈱三和電気商会代表取締役社長。加東市在住。

大学とのかかわり…加東市商工会副会長として「兵庫教育大学創立30周年記念事業協賛会」の設立に尽力。



いけまちじゅんこ
池町順子さん

主婦。三木市在住。

大学とのかかわり…16年に公開講座「ピアノを弾こう!」を受けて以来、公開講座の常連として、現在は「楽しくてうまくなるテニス教室」を受講。

近年、不登校の児童生徒数が増加傾向にあり、いじめに関する事件の検挙・補導人数も増えています。さらに、青少年による殺人などの重大事件も後を絶ちません。これらの問題の発生を未然に防ぐため、すべての子どもたちに「情動知能」をはぐくむ教育が望まれています。

点が置かれてきました。しかし、近年はそれに加えて情動知能(Emotional Intelligence)の重要性を強調する主張が見られます。

情動知能とは、米国エール大学のピーター・サラベイと同ニューハンプシャー大学のジョン・メイヤーが1990年に

初めて用いた言葉で、①情動変化に気づくことができる②情動を使って思考を深めることができる③情動が

伝えていることを理解することができる④情動を調整することができるという能力を指します。

情動知能を一般に普及させた「EQ」(原著は「Emotional Intelligence」)の著者のダニエル・ゴールマンは、情動知能を知能テストで測定されるIQとは異なる頭の良さとしています。また、米国ハーバード大学のハワード・ガードナーは、近年の脳神経科学の知見に基づいて多重知能(Multiple Intelligences)理論を展開

し、そこで「対人的知能」と「内省的知能」が情動知能に対応すると説いています。日本においても、兵庫教育大学の梶田淑一学長が、子どもたちに「我々の世界」を生きる力と「我の世界」を生きる力の2つの力を身に付けることの重要性を提唱されていますが、これらも情動知能と類似した概念と思われまます。

情動知能と学力

情動知能とSAT(米国の大学進学のための全国共通試験)の得点との間には有意な相関があることなど、情動知能は学業面での学習効果を高めることでも知られています。また、自発的学習が依存的学习かは、知能よりも「情動的」姿勢であるかどうかによって決まり、成功した学習者は早い時期に「努力を要する抑制」と呼ばれる自制機能の一種を発達させていると報告されています(平成17年OECD教育研究革新センター)。

子どもたちが情動知能を獲得するため、小中学校は場所としても、時期としても最適です。米国の倫理学者、ジョン・ゴットマンも情動知能の高い子どもを育てるには思春期までの教育が重要としています。さらに、最近の脳科学の研究からも情動知能に関係する前頭葉は青年期までゆっくり発達することが報告されています。

今こそ情動知能の育成が必要

兵庫教育大学附属小学校では平成14年度から6年間、文部科学省から研究開発学校の指定を受け、情動知能をはぐくむプログラムを開発しました。大学教員、附属小学校教員、小学校教員の大学院生でプロジェクトチームを構成し、それぞれの専門性を生かした実践的研究を推進することができました。

情動知能とは

従来、学校教育では学術的知能(Academic Intelligence)を高めることに重

◎TEXT



まつむらりつ子
松村京子
臨床・健康教育学系教授
附属小学校長



◎情動知能を示す具体的行動

情動知能を獲得している	情動知能を獲得していない
<ul style="list-style-type: none"> ●「私は…」という言い方で相手に伝える ●気持ちを開示することができる ●ネガティブな感情に支配されない ●非言語的なメッセージを読み取ることができる ●気持ちと論理に基づいて判断する ●自分も他者も受け入れる ●責任をもつことができる ●自分の意見や要求を誠実に率直に話すことができる ●内発的に動機づけられる ●感情的な立ち直りが早い ●楽観的な見方をする ●他者の気持ちがかかる ●他者の失敗を責めない ●「私は……と感じる」と言う ●気持ちを処理することで傷つくことを防ぐ ●気持ちを共有することで悲しみを防ぐ ●自尊心があり有能であると感じている ●聞くことが上手である ●問題やコミュニケーション不足を話し合いで解決する 	<ul style="list-style-type: none"> ●非難の言葉を使う ●気持ちを話して共有することができない ●ネガティブな気持ちでいっぱいになる ●非言語的コミュニケーションに気づかない ●理由や論理がなく行動する ●自分や他者を受け入れない ●責任を持つことを学んでこなかった ●受動的で攻撃的なコミュニケーションをする ●報酬や瞬間的な欲求充足によって動機づけられる ●悪意をもち続ける ●悲観的な見方をする ●他人の気持ちを受け入れない ●いつも誰かのせいだと感じる ●「君はいつも……だ」と言う ●暴力をふるうことで自分が傷つくことを防ぐ ●キレることで悲しみを防ぐ ●自分は能力に欠け防衛的であると感じている ●聞くことが下手である ●問題が起きるとすぐ行動に移す

兵庫教育大学附属小学校では平成14年、研究開発学校の指定を受け、「人間発達科」の教科を特設しました。人間発達科の授業では、児童が自分自身や他の子どもとのかわりを体験することによって、人間発達に関する科学的知識の獲得と情動知能の育成をめざしています。

人間の発達を漠然と眺めるのではなく

附属小学校の取り組み

『「こころの知性」を育む－幼稚園児から中学生までの教育－』（東信堂・平成16年刊）より
 原題「Fostering Emotional Intelligence in K-8 Student」（グウェン・ドイ著・2001年。松村京子監訳）

く、自分と異なる年齢の児童はどのように違うのかを、運動機能、言語、情動、社会性、認知・思考の各観点で観察することで、発達についてより深く理解できるようになります。

例えば、自分と年少者を比べることで、自分が発達してきたことに気づきます。これは、児童の自己効力感や自尊感情を高めることになり、学習意欲の向上にもつながります。一方、年長者との比較では自分の発達



の可能性を実感させ、将来の自分がそありたいと願う自己像の明確化につながります。そのような発達の違いを認識して、相手とかわかることで、適切な対人関係を築けると考えます。

低学年時に高学年の児童から優しくされ、養護される経験をたっぷり持った児童は、高学年になり養護する立場に回った時、低学年に対して優しくかわかることができるようになります。自分が低学年時に優しくしてくれた高学年児童がモデルとなっており、その時のうれしい情動体験からどうしてもらったらうれしいかを知っているからです。同時に、低学年から高学年までのすべての子どもたち

が、自分たちは大切にされる存在であり、他者のために貢献できる存在であることを学ぶ機会にもなります。こうして自己と他者の情動変化に気づいたり、相手の情動を推し測ったり、情動の表出をコントロールしたりして、他者とかわかる能力がはぐくまれ、情動知能が育成されるのです。

このような学習を小学校で実施する意義は次の通りです。小学校の特徴と児童の発達状況を生かした取り組みといえます。

- 発達期にある自分の成長・発達を見つめることができる
- 養護される立場から養護する立場への転換がある

- 校内で日常的に異年齢交流ができる
- 1年生から6年生までの発達の違いにかかわる実験的・体験的学習が可能である

〈関連出版図書〉

- ◎『「こころの知性」を育む－幼稚園児から中学生までの教育－』（東信堂・平成16年刊）
- ◎「情動知能を育む教育－「人間発達科」の試み－」（ナカニシヤ出版・平成18年刊）
- ◎「子どもを伸ばす情動知能の育成」（明治図書・平成20年刊）



文部科学省が新しい学習指導要領の理念に掲げる「生きる力」をはぐくむうえで、欠かすことができないのが情動知能です。情動知能は学力の向上をサポートするとともに、他者とのかわりを潤滑にします。附属小学校では児童の情動知能の向

この目標に沿って、学年ごとに発達段階に応じた教育目標と内容を設定しました。各学年の主な活動は次の通りです。
◎1年生「本ものチャレンジ—大きく—」
自分のことを振り返ったり、家族をは

じめとする身近な人にインタビューをしたりしながら、「自分ができるようになったこと」を集めます。それをカードに書き、厚紙で作った自分と等身大の「分身くん」に張り付けます。
子どもたちは分身くんカードを張っ

たり、分身くんを遊んだりすることで、自分自身の成長・発達とそれを支えてくれた家族の温かさに気づき、喜びを感じます。この気持ちを新たなチャレンジにつなげていきます。

附属小学校「人間発達科」の情動知能をはぐくむ試み

上をめざし、平成14年度に教科「人間発達科」を設置。感情や思考の仕組みに関する知識・理解を深め、他者を理解したり、自己の感情をコントロールしたりする技能を高めることをめざした授業に取り組んできました。

学年ごとに教育目標を設定

人間発達科の目標は「異年齢の人々との交流や観察を通して、人間の成長・発達に関する現象やその背景にある養護的なかわりに気づき、自他への理解を深めるとともに、人とかかわる楽しさを味わい、内省性・社会性・養護性を育む」。

◎TEXT



坂本 貢孝
熱海市立多賀小学校教諭
(平成13～19年度附属小学校教諭)

1年生

「本ものチャレンジ—大きく—わたし—」



黄色と水色のカードにできるようになったことを書いて「分身くん」に張り、次に緑色のチャレンジカードに挑戦したいことを書いて張ります。それに対する家族のコメントはピンクのカードに

2年生

「大きく—わたし—」



いのちの始まりについて調べたり、乳児を観察したり、乳児の母親から話を聞いたりしたことをまとめて本を作ります

◎2年生「大きく—わたし—」
「生命の誕生」について、自分の知っていることや疑問に思っていることを基に学びます。自分自身の誕生について、家族へのインタビューを中心に調べ、本にまとめていきます。

児童たちは、自分の誕生にまつわる家族のエピソードに触れる中で、家族の温かさと自分のいのちの大切さを実感します。この気持ちを今後の成長・発達への願いや自他のいのちを大切にしたい思いをはぐくむことにつなげていきます。

◎3年生「発達くらべしよう」

3年生の子どもたちは、遠足や縦割りの活動の中で、高学年をサポートしてもらったり、逆に1、2年生をサポートしたりする経験をします。そのときの出来事を振り返り、自分と高学年や低学年とを比較しながら、成長・発達について学びます。

低学年の子どもとかかわりでは、自

分自身の成長・発達を実感するだけでなく、相手を思いやる良さや喜びも感じます。また、高学年へのあこがれが今後の成長・発達への願いになります。

◎4年生「赤ちゃん会を開こう」

年間を通して乳児とその母親との交流を持ちます。交流会の計画、実施、振り返りによって、乳児の成長・発達と、母親の養護的なかわりを学びます。乳児の成長・発達を実感するとともに、乳児に対する愛着が生まれ、慈しむ気持ちもはぐくまれます。

◎5年生「感情のひみつを探ろう」

日ごろ、自分が抱いている感情にかかわる問題意識を基に、感情の仕組みについて学びます。

ワークや教材を活用して感情を把握したり、コントロールしたりする方法を探ります。そして、日常生活における他者とのかわりに生かしていきます。

◎6年生「思考の発達を探ろう」

幼児との比較（ピアジェの実験）によって自分の思考の発達を自覚したり、中学生との討論を通して、今後の思考の発達のイメージをめぐらせたりします。思考の発達を理解することで、自分の思考を発達させるための課題をつか

◎人間発達科の授業における各学年の取り組み

5年生

「感情のひみつを探ろう」



乳児の泣き顔と笑顔を集めたビデオを視聴し、乳児の感情の豊かさを学び(左)、続いて、自分たちもさまざまな感情を顔に出して、感情の仕組みを学びます(右)

3年生

「発達くらべをしよう」



左は5年生との仲よし遠足。児童は5年生に対して「優しくてかっこいい」というあこがれを抱きます。右の1年生との合同玉入れでは、下級生を指導することの難しさを実感します

6年生

「思考の発達を探ろう」



左は幼児を相手にしてのピアジェの実験。右は附属中学校の生徒との討論。自分の思考を発達させるための課題発見に努めます

4年生

「赤ちゃん会を開こう」



乳児を抱いて、その愛らしさを感じます。年度末、最後の「赤ちゃん会」(右)では歩き始めた乳児との別れを惜しまました

他校の教員と保護者の
反応から見える成果

人間発達科の研究は、文部科学省の研究指定を受けた平成14年度から19年度まで続きました。

その期間、児童は自己の思考や行為を見つめることで、感情をコントロールする内省性や他者の気持ちを考えながらかわる社会性、養護性が着実に育っていききました。

附属小学校の授業を参観された他校の教員からは「本来の子どもの姿を見せながらも、人の話を最後まで聞く児童の姿勢は、やはり共感性が育っているのだと確信した。どのクラスでも一生懸命に話を聞いている子ども目を見ているだけでうれしくなる」など、子どもたちの話を聞き合う姿を褒める感想が多数寄せられました。

また、保護者の約90%は人間発達科が必要であると感じています。一番身近にいる保護者の多くが子どもへの効果を感じていることも、人間発達科の取り組みの成果を表しているといえます。

今後は、この人間発達科の研究成果を生かし、情動知能をはぐくむという視点を教育活動全体に広げていきたいと考えています。

んでいきます。



よし たつ ひろ
吉田達弘

社会・言語教育学系准教授

研究 レポート

このページでは日本学術振興会の科学研究費補助金を受けた研究を紹介いたします。科学研究費補助金は、すべての分野の「学術研究」を格段に発展させることを目的に、独自の・先駆的な研究に対して助成を行うものです。基盤研究、萌芽研究、若手研究などに分かれており、基盤研究は1人または複数の研究者が共同で行う研究が対象。研究期間は2～4年です。



学生は課題に沿って自らの経験の振り返りをeポートフォリオに英語でつづります。数カ月後に読み直し、自分の見方がどのように変容したかを捕捉します。

いま、学校での英語教育が大きな変わり目にかけています。平成15年度に文部科学省は「英語が使える日本人」を育成する行動計画」を打ち出し、日本人がめざすべき英語力、教師の英語運用力の指標を発表しました。さらに、今回の学習指導要領の改訂によつ

社会文化的アプローチに基づく英語科教師の学びの研究 (平成18～20年度科学研究費補助金・基盤研究に採択)

て、23年度から小学5、6年生の外国語活動が必修となります。

これらの変化の背景には、日本人の英語でのコミュニケーション能力を向上させなければ国際化の波に乗り遅れてしまうという考えが強くあります。近年、兵庫教育大学にもアジアからの留学生が急増していますが、彼らとは日本語よりも英語で話すことの方が多く、国際語としての英語の流通性を感じます。

その一方で、英語は入試における重要な教科の一つであり、生徒たちは依然として、テストのための勉強をしなければなりませんし、文法訳読式の指導法も根強く行われています。このように学校で英語を学ぶ理由付けも簡単ではなくなってきました。

大変なのは英語教師です。研修などで指導方法を学び続けることがこれまで以上に求められますが、現在の複雑な状況下で、英語教師たちはどのように学べばいいのか戸惑っています。また、

必ずしも、教師のニーズに答えられる研修が開かれているとも限りません。

私の研究は、そもそも英語教師が学び続ける理由はどこにあるのか、教師の持っている「実践の理論」とは何かを考えたながら、英語教師の成長を支援するための開発研究を行うことを目標としています。

現在、大学院で担当する授業にムードル(Moodle)というインターネットを利用した授業マネジメントソフトウェアを導入し、学生にはeポートフォリオを作成してもらっています。そして課題に沿って自身の経験を英語で振り返ってもらうスペースとして運用しています。また、修了生との共同研究では、ムードルにジャーナルライティング(日々の実践の振り返りの書き込み)をしてもらっています。

eポートフォリオに蓄積されたデータの分析を通して、学生たちが自身の経験を異なった視点から捉えられるようになってきているか、英語教師としてのアイデンティティがどのように変容するかを明らかにします。さらに、英語教師の学びを「状況的な学び」「個



今年3月、米国ペンシルバニア州立大学のKaren Johnson教授を神戸サテライトに招き、「教師によるナラティブ」「eポートフォリオ」についての研究会を開きました。

人の歴史の上に立つ学び」「事例からの学び」「協同による学び」と捉え、教師自らが「実践の理論化」を行う支援に取り組んでいます。学生にとって自分の経験を英語で振り返る作業は大変ですが、経験を対象化し、他者と対話することで、さまざまな気づきが生まれ、児童生徒の理解の深化と、授業の質を高める効果がありそうです。

Q

教員の「バーンアウト(燃え尽き症候群)」を予防するため、職場にはどのような取り組みが求められますか。



Q&A

バーンアウトの予防には、授業や生徒指導がうまくいかずに悩んでいる教員を孤立させないよう、職場全体で支えることが大切です。難問を一人で抱え込み「何とかしなければ」という思いが強くなると、見方が一面的になったり、対応がワンパターンに陥ったりして、疲れ果ててしまうことも少なくありません。問題解決に向けて職場で組織的にかかわることで、教員の負担は軽減できます。

このような協働体制を築くためには、日ごろから教員同士が本音で語り合い、「困った」「どうしよう」「手伝って」と言えるような温かい雰囲気づくりが必要です。教員同士のつながりは職員室での何気ない会話や共同

作業の中で培われるものですが、最近は多忙化・私事化によって自然に形成されることが難しくなってきたように思われます。業務の精選などゆとりを生み出す手立てを探りながら、定期的に食事会を開いたり、行事の準備で共に汗を流したり、教員の特技を生かしたワークショップ型の研修会を企画したりするなど、同じ職場の者として互いに理解し合い、一体感を味わえる取り組みを意図的に進めていくことが必要ではないでしょうか。

職場の支え合いを基盤に、各自が自発的にやりがいを持って教育に打ち込める体制を根付かせることが、バーンアウト予防につながると考えます。

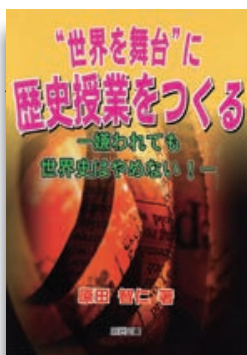


あら い はじめ
新井 肇
臨床・健康教育学系教授



教員の 著書紹介

Books



“世界を舞台”に歴史授業をつくる —嫌われても世界史はやめない!—

(明治図書・平成20年刊)
著者:原田智仁(社会・言語教育学系教授)

—昨年、高等学校における世界史の未履修問題が明らかになりましたが、最近の高校生には世界史はあまり好かれませんが、世界が地球規模で一体化した現在こそ、世界の歴史や文化について学ぶことが必要ではないでしょうか。無論、それは日本が欠落した外国史ではなく、日本と世界がクロスオーバーした歴史を意味します。それはいかなるものか。本書ではそのような歴史の授業をつくるための視点と方法を提示しています。また、世界史を読み解くキーワードについても解説しています。

※教員の著書は附属図書館で閲覧できます。詳しくは学術情報課☎0795-44-2062へ問い合わせください。



発達障害の子がいるクラスの 授業・学級経営の工夫

(明治図書・平成20年刊)
編著:小島道生(長崎大学准教授)
宇野宏幸(臨床・健康教育学系教授)
井澤信三(臨床・健康教育学系准教授)

本書は、発達障害児への対応を踏まえた通常学級の授業づくりや学級経営を扱っており、学校現場の教員に活用していただきたい1冊です。キーワードは「やる気」と「自信」。対象児のニーズもくみ取った分かりやすい授業は、クラス全体に理解することの楽しさとやる気をもたらします。発達障害を理解する必須キーワードや学校での実践事例、指導や配慮のワンポイントアドバイスなどを豊富なイラストとともに盛り込んでいます。実践事例の内容は、教員のみなさんと開催している勉強会の成果でもあります。

ユーモアにあふれた 的確な指導が役立ちます



私たちの先生

天根哲治 准教授
基礎教育学系

和気あいあいとした雰囲気です



天根先生と出会って2年半が過ぎました。週1回のゼミの始まりは、1週間の出来事について冗談を交えながら話して下さるのが恒例です。リアリティなゼミをポリシーに、明るく、楽しく、真剣な雰囲気は先生の人柄そのものだと感じています。

先生は、学校における「授業」「学習」「教育評価」、さらには「学級経営」について、社会的文脈を視座に心理学的アプローチを核とする実践的な研究がされています。ゼミ生は小・中・高校の現職教員をはじめ、教職以外の社会人経験者、ストレート院生、学部生と、経歴も世代も異



なり、研究内容も多岐にわたります。先生は誰に対しても、いつも優しく、時に厳しく指導してください。あらゆる分野に対するコメントも、誰にでも分かるようにかみ砕きながら具体的な例を示してください。研究と

現場のつながりが見えてよく理解できます。

先生は昨年度から現在の専門職学位課程(教職大学院)の授業実践リーダーコースの担当となり、加東キャンパスと神戸サテライトを歩き来られています。教職大学院の授業でも先生のスタイルは変わることなく、だじやれを織り交ぜた明るい雰囲気指導されています。

修士課程のゼミ生はサテライトの院生を含めて残り3人となりました。私たち最後の天根ゼミ生は、研究で多くの壁にぶち当たりますが、それをどう乗り越えるか、さまざまな道を一緒に探し、背中を押してください。

先生のようにユーモアに富んだ明るい教員になれるよう、先生からいろいろなことを吸収しながら研究を続けていきたいです。

天根哲治 あまね・てつじ

奈良県出身。昭和54年、広島大学大学院博士後期課程の単位修得。56年に兵庫教育大学助手となり、59年から助教。63年、在外研究員として米国ミシガン州立大学に滞在。平成19年、大学院准教授に就く。社会心理学的観点から人間関係を軸にして「授業と学び」を研究。新任教員に対するメンタリングの研究にも取り組んでいる。

しみず まさる おかむらひでのり 清水 将さん(左) 岡村英典さん

大学院修士課程教育内容・方法開発コース2年



先生から学生たちへ



社会心理学的観点から「授業」や「教育方法」を研究する挑戦的なゼミを開講して四半世紀近くたち、研究指導した学生は百人以上にのぼります。心理学を生かしたゼミ経営の成果でしょうか、学生との人間関係は概して良好、親密でした。

しかし、ここ数年は学生との関係の質が微妙に変化してきたように感じます。学生側の変化もあるでしょうが、私自身にも変わってきたところがあります。「最近の学生の考え方や価値観に対する思い込み。これに基づく日ごろの働きかけ年齢に伴う無意図的なバリエーション設定」と、大きな原因はむしろ、私自身にありそうです。

みなさんも、自分と相手、自分と生徒の関係に置き換えて考えてみてください。

卒業生からの手紙



教員は「子どもの未来応援団」

小学校教員になって初めての1学期ははてさてお舞いの状態でした。学級づくり、授業計画、事務など、想像していた以上に仕事は多かったです。しかし、どんなに忙しい中でも子どもたちと過ごす時間を持つことが大切。ほぼ毎日、休み時間は外で一緒に遊んでいます。休み時間を楽しく過ごすことで、子どもたちも私も「ここからはじめをつけて授業を頑張ろう」とメリハリをつけられます。常に「子どものためになる」ことを忘れないようにしたいです。

子どもたちは毎朝、「今日はどんなことをするのだろう」と期待に胸を膨らませて登校します。頑張って準備した授業を楽しそうに受けている姿を見ると、とてもうれしいです。彼らにとっての1日は私たちの1日より大きなもの。日々の積み重ねが子どもたちの未来をつくっていきます。まさに教員は「子どもの未来応援団」と言えるでしょう。

学生のみなさんは、多くの人に会い、いろいろな場所に向向き、たくさんのエネルギーを吸収し、充実した学生生活を送ってください。学生時代の経験は社会に出た時に大きな力となるはずですよ。お互いに実りある毎日を心がけ、頑張っていきたいと思います。

かとう けいすけ
加藤圭亮さん

宝塚市立長尾南小学校教諭



宝塚市出身。平成20年3月、学校教育学部自然系コースを卒業し、4月から宝塚市立長尾南小学校で4年生の担任に就く。卒業論文のテーマは「小中学校理科における力学教材の研究」。

授業では子どもたちと一緒に考えながら、解答を導き出します



よしだ ひろし
吉田 廣さん

加西市教育委員会教育委員
大学院同窓会顧問

加西市出身。昭和57年に大学院修士課程教育方法コースを修了。兵庫県内の小学校の教壇に立ち、校長を歴任。県教育委員会、加西市教育委員会に勤務したことも。平成5年から大学院同窓会第5期会長を務め、19年に顧問に就く。

大学院同窓会佐賀大会であいさつ(中央)



昭和53年、全国に先駆け「教員のための大学院」として創設された兵庫教育大学が、この10月で開学30周年を迎えます。神戸商船大学(現神戸大学深江キャンパス)で怒号が飛び交う中を機動隊に守られて入学試験に臨んだこと、社町福祉センター(当時)で行われた入学式などが、昨日の出来事のように思い起こされます。大学のキャンパスが整備され、学校教育学部や博士課程の開設、神戸サテライトの設置、今年4月の教職大学院の開設など、名実ともに日本の教育界をリードする大学へと発展していく姿にはOBとして感慨深いものがあります。

現在の教育現場では学力不振、学習意欲の低下、規範意識の未発達など解決すべき課題が山積しており、教育基本法の改正や学習指導要領の改訂といった改革策が矢継ぎ早に打ち出されています。全国各地の教育現場で活躍する兵庫教育大学の卒業生・修了生は教育諸課題の解決に向けて、一層連携を図っていく必要があります。大学を軸に卒業生・修了生を結ぶ連合組織の構築と「Hyokyo-net」を使った活発な研究の交流や実践活動にかかる情報の交換を呼びかけたいと考えています。

発展し続ける大学に感慨もひとしお



スポット・ライト

いそべすずか
磯部涼香さん

附属中学校1年

平成8年、神戸市生まれ。5歳からスノーボードを始め、附属小学校5年生だった06/07シーズンから日本スノーボード協会(JSBA)の公式戦に参戦。07/08シーズンは全日本ジュニアスキー選手権大会で優勝するなど好成績を挙げ、ユース女子のDU+SLクラスのランキングで1位に輝く。

今年5月、日本スノーボード協会

(JSBA)の07/08シーズンの公認競

技会ツアーランキングが発表され、磯

部涼香さんはユース(15歳以下)女子の

DU+SLクラスで1位に輝きました。

「昨シーズンは良い成績だったので1位

になるのは分かっていました、あらた

めてうれしさがこみあげてきました」

スノーボードとの出会いは附属幼稚園

に通っていた5歳の時。「家族で共通の趣

味を持ちたい」という父親、俊邦さんの

希望で始めたのがきっかけです。附属小

学校に進学後、福井県のスクールに入

校。日本のトッププロである杉本孝次さ

んと片山雅登さんの指導のもと、めきめ

きと力をつけていきました。「幼いころか

スノーボードで
全国トップに
躍り出た
ユース世代の新星



アルペン用ボードに変えたことが奏功し、ランキングが急上昇しました

らバランス感覚は良く、そのあたりがス
ノーボードに向いていたのでしょうか」
と母親の享恵さんは話します。

ン用のボードを使用。アルペン用ボード
はそれまでのフリースタイル用と比べて
速度が出るものの、重量があり、足首の

「将来は冬季オリンピックに出られる
選手になりたいです」とさらなる飛躍を
誓う磯部さん。大きな可能性を秘めた
十二歳の挑戦はまだ始まったばかりです。

4年生の夏休み、杉本さ
んのニュージラランド合宿
に初めて参加。その冬の05/
06シーズンからJSBAに
選手登録しますが、練習中
に転倒して右手首を骨折。結
局、そのシーズンは棒に振る
ことに。公式戦初参戦となっ
た翌シーズンはランキングが
二けた順位に終わり、全国の
壁を痛感させられました。

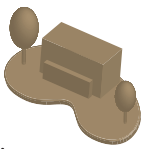
動きが制限されるハードブーツをはくこ
とから、年少者が使いこなすのは容易で
はありません。
しかし、合宿での猛練習でアルペン用
を自分のものにした彼女は、確かな手
応えをつかんで07/08シーズンを迎えま
した。今年2月の「全日本ジュニアスキー
選手権大会」ではスラローム2種目で優
勝、続く「JSBA全日本スノーボード
選手権大会」でも中学生に交じって同じ
2種目で2位と4位に入賞。一躍、全国
のトップクラスへと駆け上がりました。

●日本スノーボード協会(JSBA)
ツアーランキングとは

毎年1月～4月に開かれる公認競技会に出
場し、その成績に応じてポイントが加算され
る仕組み。磯部さんの07/08シーズンはユ
ース(15歳以下)女子のDU+SLクラスで1位
に輝いたほか、同GS+SGクラスでも4位にラ
ンクインしました。※DU=デュアルスラローム、
SL=スラローム、GS=ジャイアントスラローム、
SG=スーパージャイアントスラローム



全日本ジュニアスキー選手権大会とJSBA全日本ス
ノーボード選手権大会のメダルが誇らしげです



加東市にある光明寺
にもたびたび訪れます

休日は寺院巡り 将来は子どもたちに 日本の文化を伝えたい



周りの緑に溶け込む寺
院は心が落ち着きます



これに夢中!



ひょうとう たい すけ
兵藤大輔さん
学校教育学部幼年教育系コース3年

昨年、タイ旅行で訪れた仏教寺院の美しさに感動し、帰国後、寺院巡りを始めました。ある寺院の住職に本堂の中を見せていただき、話をうかがったこともありました。寺の歴史を受け継ぎ、後世に残そうと努力されている住職の生き方には深い感銘を受けました。以来、外観だけでなく寺の歴史にも興味を持つようになりました。一つ一つの寺の歴史を知ることがとても魅力的です。

僕は建築にも興味があり、柱と梁が巧みに支え合っている設計には、当時の技術の素晴らしさを感じます。本堂の中は風がよく通り、夏でも涼しいように造られています。自然と共存できる建築は現代には数少ないように思います。温故知新とはよく言ったもので、古いものから学ぶこともたくさんあると感じます。

将来の目標は、小学校教員となり、児童に寺の文化や歴史を通して日本の素晴らしさを伝えることです。

C o n g r a t u l a t i o n

日々のけいこで 力と技を磨き 来年は全日本大会へ

第4回はりまカップ21空手道選手権大会
一般男子中級軽量級の部第3位



みや がわ ゆう き
宮川雄基さん
学校教育学部学校教育系コース3年

私にとって実戦空手は心から好きだと言えるものであり、今回のような好成績を挙げられたのは本当にうれしい限りです。高校生のころ、テレビでK-1を見て以来、「大学に入ったら格闘技をやりたい」と思っていました。

相手を豪快にKOした時のだご味などは、実際にやってみないと本当に分からないものです。しかし、忘れてはいけないのはけんかではなく武道だということ。試合が終われば相手を気遣い、互いの健闘をた



目標に向け、けいこ
にも熱が入ります

たえ合うことが
何より大切だ
と思います。

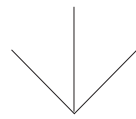
今の目標は、

来年に開かれる「白蓮会館」という会派の全日本大会に出場することです。基本的に他流派の選手も出場できますが、それ相当の実績が求められます。当面は、さまざまな大会で好成績を挙げなければいけません。今の自分には未熟な部分が多いので、しっかりとけいこを積んで力と技を磨いていきたいと思っています。



うれしの交差点

～兵庫教育大学と地域の交流ページ



ルポ

地域子ども教室

子どもたちが安全で安心して
学習や遊びができる場所づくりとして
全国で展開されている「地域子ども教室」。

加東市内の教室では学生有志が
地域スタッフとして参加しています。



→東条会館の教室に参加した4人。左から池田さん、畑中さん、沖さん、角山さん



地域住民の一員として 子育て支援活動に参加しています

宿題を教えたり、一緒に遊んだり。児童たちも週1回の教室を心待ちにしています



文部科学省の「放課後子どもプラン」の一環として、平成16年度から全国で始まった「地域子ども教室」は、地域の大人が見守る中、子どもたちが学習したり、遊んだりできる場です。加東市内の教室は9小学校区13カ所。そのうち8カ所に兵庫教育大学の学生が地域スタッフとして参加しています。東条東小学校区では毎週水曜の午後3時から2時間、東条会館で開催されています。

「子どもが巻き込まれる犯罪が増えていて、今、地域全体で子育てを支援しようという機運が高まっています」と語るのは、旧東条町の3教室でコーディネーターを務める松本光弘さん。「兵教大の学生の存在は心強いです。彼らは子どもへの接し方に慣れていて、体力もありますからね」

この日、東条会館に集まった児童は42人。兵庫教育大学からは学部4年生の池田祐介さん、1年生の畑中美里さん、角山衣絵さん、沖侑香里さんが参加しました。最初は多目的室で宿題をして、後半の1時間は隣接する体育館で遊びます。

ハンドボール部の先輩である池田さんに誘われて参加したという角山さんは「初めのころは、子どもたちの輪にうまく入っていけるか不安でしたが、最近は名前を覚えてくれるようになりました」と笑みを浮かべます。1年生の時から携わっている池田さんは、教育実習と照らし合わせて、



創立30周年記念事業 「大学公開イベント」のお知らせ

加東キャンパスで子どもやファミリー向けの体験プログラム(参加無料)、高校生を対象としたオープンキャンパスなどを開催します。みなさんの来学をお待ちしています。

◎日時 10月13日(月)祝10:00~15:00

◎場所 加東キャンパス

時…時間 所…場所 対…対象 定…定員

体験プログラム

わくわく理科A 石に含まれている鉱物や微生物、波紋などを観察します。時13:00~15:00 所自然、生活・健康棟319教室 対小・中学生

わくわく理科B 七宝焼き、バッチャやマグネット作りに挑戦します。時10:00~11:00、13:00~14:00 所自然、生活・健康棟323教室 対小・中学生 各20人(当日先着順。各回開始30分前から整理券を配布)

体験!おもしろ技術教室 金属を用いたものづくり、プログラミングによる教材ロボットの制御などを体験できます。時10:00~12:00、13:00~15:00 所共通講義棟104教室 対小学校高学年以上 対ものづくりのみ80人(当日先着順)

親子でそば打ち※ そば打ちと試食を通して、日本の食文化を楽しく学びます。エプロンが必要です。時10:00~11:30 所学生会館食堂 対小学生とその保護者 対10組20人

箏を弾いてみよう※ おなじみの曲を箏で弾いてみませんか。演奏家による模範演奏も。時13:00~15:00 所芸術棟303教室 対小学生(保護者の付き添い可) 対15人

体と心をほぐそうーニュースポーツ体験広場ー※ ささまざまなニュースポーツに挑戦!動きやすい服装で、体育館用シューズ、飲み物を持参してください。時10:00~12:00 所体育館 対小学1~4年生(保護者も参加できます) 対30人

附属図書館、教育実践コラボレーションセンターの一般公開

時10:00~15:00 所附属図書館、教育実践コラボレーションセンター(パネル展もあり)

オープンキャンパス

兵庫教育大学への受験を考えている高校生が対象。午前は全体説明会と修学相談を実施。午後からはキャンパスを見学できます。

時10:00~15:00 所共通講義棟106教室 対高校生

100円カレー登場!

学生会館食堂でカレーライスを100円で提供。売り切れる場合があります。

時11:30~15:00 所学生会館食堂

※は参加申し込みが必要です(先着順)

電話(平日9:00~17:00)、ファクス、Eメールで受け付けています。締め切り10月3日(金)。ファクスとEメールの場合は、希望イベント名、氏名(参加者とその保護者)、学校名・学年、郵便番号・住所、電話番号を記載してください。

◎申し込み・問い合わせ先

兵庫教育大学教育支援課

TEL 0795-44-2322 FAX 0795-44-2039

E aca-koukai@hyogo-u.ac.jp

URL=http://www.office.hyogo-u.ac.jp/

gen/30th/index.html

Ureshino Scramble

加東市の「地域子ども教室」について

子どもたちの健やかな育ちを願う地域の人々の協力を得て、放課後に開催。子どもたちは、地域の大人や大学生に勉強や昔の遊びなどを教えてもらったり、一緒に運動を楽しんだりします。土曜や日曜に季節のイベントをすることもあります。

場所	開催日時
社 社一区公民館	毎週水曜 15:00~17:00
米田ふれあい協議会	第2・第4水曜 15:00~17:00
やしろこどものいえ	毎週木曜 15:00~17:00
社公民館	毎週木曜 15:00~17:00
コミュニティギャラリー鴨川	毎週水曜 15:30~17:30
滝野 高岡コミュニティーセンター	第1・第3水曜 15:00~17:00
滝野総合公園体育館	第2・第4水曜 15:00~17:00
北野コミュニティーセンター	第2・第4水曜 15:00~17:00
下滝野公民館	毎週木曜 15:00~17:00
滝野公民館	毎週木曜 15:00~17:00
東条 コミュニティーセンター東条会館	毎週水曜 15:00~17:00
数集会所	毎週水曜 15:00~17:00
東条公民館	毎週木曜 15:00~17:00

◎対象

小学生。都合のよい日、時間のみ参加でも構いません。ジュニアリーダーとして活躍してくれる中学生の参加も受け付けています。

◎申し込み方法

保護者が申込用紙と登録カード、参加誓約書を記入のうえ、参加したい教室に直接申し込んでください。書類は各小学校で配布しています。



「ここでは地域の一人として子どもと向き合うよう心掛けています。子どもたちの楽しませ方に幅が広がったような気がします」と話します。

体育館に移動するとすぐさま池田さんを鬼にしての鬼ごっこが始まりました。畑中さんや沖さんは女兒たちと輪になってバレーボール。どの児童も喜々とした表情で歓声を上げます。

夕方5時、児童たちは「ありがとう」と手を振って、迎えにきた父母らのもとへ。学生たちは見送った後、その日の出来事を文章にまとめます。

「文面からは学生たちの苦悩も垣間見えます」と松本さん。「例えば、『一人の児童の宿題にかかりきりになり、ほかの子どもたちにはえこひいきに映ったかもしれない』とか。彼らは一つ一つの課題を乗り越えて、教員として成長してくれると思います」と温かい視線を送ります。

近年、子どもの健全育成に向けて、学校と保護者、地域の一層の連携が求められています。学生たちの経験は、将来に必ず生きてくるでしょう。

◎平成21年度学生募集

☆大学院学校教育研究科

<後期選抜試験>

修士課程

◎募集人員73人

▶学校教育学専攻		
教育コミュニケーションコース	昼間クラス	2人
	夜間クラス	若干人
幼年教育コース	昼間クラス	2人
	夜間クラス	若干人
学校心理学コース	昼間クラス	3人
	夜間クラス	5人
臨床心理学コース	夜間クラス	15人
▶特別支援教育学専攻		
心身障害コース		10人
特別支援教育コーディネーターコース		2人
▶教科・領域教育学専攻		
言語系コース	昼間クラス	5人
	夜間クラス	若干人
社会系コース	昼間クラス	10人
	夜間クラス	若干人
自然系コース	昼間クラス	8人
	夜間クラス	若干人
芸術系コース	昼間クラス	5人
	夜間クラス	若干人
生活・健康・総合内容系コース	昼間クラス	6人
	夜間クラス	若干人

専門職学位課程(教職大学院)

◎募集人員39人

▶教育実践高度化専攻		
学校経営コース		13人
授業実践リーダーコース	昼間クラス	12人
	夜間クラス	若干人
心の教育実践コース	昼間クラス	4人
	夜間クラス	若干人
小学校教員養成特別コース		10人

◎出願期間 10月10日(金)～17日(金)(消印有効)

◎試験日 11月15日(土)(筆記・口述)

◎合格者の発表 12月5日(金)10:00

※昼間クラスと夜間クラスのあるコースは昼夜開講制です。昼間クラスは加東キャンパスで、夜間クラスは主に神戸サテライト(神戸市中央区)で開講します。

※言語系コースには国語分野と英語分野、自然系コースには数学分野と理科分野、芸術系コースには音楽分野と美術分野があります。

☎入試課 ☎0795・44・2067

◎大学院学校教育研究科説明会

大学院学校教育研究科(修士課程、専門職学位課程)の教育課程や専攻・コースの概要などについて説明します。個別相談の時間も設けます。

◎日時 10月4日(土)13:30～15:00

◎場所 神戸市総合教育センター(神戸市中央区)

☎入試課

☎0795・44・2067 ☎0795・44・2069

☎office-nyushi-k@hyogo-u.ac.jp

◎国際シンポジウム2008

「教員リカレント教育の新たな可能性を求めて―大学院における実践事例の国際比較―」

韓国、中国、米国の教員養成大学の教授らを招き、教員の再教育について議論します。参加無料。

◎日時 10月26日(土)10:00～16:00

◎場所 神戸新聞松方ホール(神戸市中央区)

◎申込方法

Eメールで受け付け。シンポジウム参加希望の旨と氏名、所属、住所、電話・ファクス番号、メールアドレスを記載してください。

☎教育・社会調査研究センター

☎☎0795・44・2460

☎essrc-sympo2008@hyogo-u.ac.jp

http://www.essrc.hyogo-u.ac.jp/essrc/sympo2008/

◎平成21年度園児・児童・生徒募集

☆附属幼稚園

◎募集人員

3年保育(3歳児)40人

2年保育(4歳児)20人

※21年4月1日時点での年齢

◎出願期間 10月20日(土)～24日(金)

◎選考結果発表、抽選日 11月15日(土)

☎附属小学校事務室 ☎0795・40・2218

☆附属小学校

◎公示日 11月4日(土)

☎附属小学校事務室 ☎0795・40・2218

☆附属中学校

◎公示日 10月31日(金)

☎附属中学校事務室 ☎0795・40・2224

◎附属中学校研究発表会

研究テーマ「『学び合い、高め合う授業づくり』(2年

次)―聞く・考える・伝える力の育成―」

◎内容

基調提案、公開授業、研究授業、授業研究会、講演会「学力向上と特別支援がトータルに解決できる『学び合い』でない『学び合い』」(講師:西川純上越教育大学教授)

◎開催日 10月17日(金)

◎場所 附属中学校

☎附属中学校

☎0795・40・2222 ☎0795・40・2225

http://www.school.hyogo-u.ac.jp/middle/middle.html

◎附属幼稚園幼年教育研究会

研究テーマ「保育における『つながり』を考える―思いっきり遊んで表現する子ども―」

◎内容 保育公開、研究協議、講演会

◎日時 10月29日(土)、21年1月28日(土)

いずれも9:00～16:00

◎場所 附属幼稚園

☎附属幼稚園

☎0795・40・2227 ☎0795・40・2228

☎kinder@hyogo-u.ac.jp

http://www.school.hyogo-u.ac.jp/kinder/

◎教育実践高度化専攻
(教職大学院)公開授業

今年4月に開設した教育実践高度化専攻(教職大学院)の4コースの後期授業を1時間ずつ公開します(午前2時限、午後2時限)。各授業後には質疑応答を実施。最後に梶田学長の講演会を開催します。

◎日時 11月8日(土)10:00～16:00

◎場所 神戸市総合教育センター(神戸市中央区)

☎教育支援課

☎0795・44・2322 ☎0795・44・2039

◎第27回大学祭(嬉望祭)

今年のスローガンは「Togetheeeeer!!(トウギャザー!!)」。大学院生や学部生、外国人留学生、他大学、地域の子どもからお年寄りまでが交流できる場をめざします。ぜひ、みなさんも参加し「一緒に」楽しい大学祭をつくりましょう。

◎開催日 11月22日(土)、23日(日)(祝)

◎場所 兵庫教育大学加東キャンパス

☎学生支援課

☎0795・44・2050 ☎0795・44・2049

☎office-gakusei-t@hyogo-u.ac.jp

編 集 後 記

●孔子は「論語」に「三十而立」と書いています。兵庫教育大学も創立30周年を迎え、自立した独自の道を歩むこととなります。今号の特別企画として開いた座談会では、学外の方々から本学に対する貴重なご意見をいただき、地域との交流・連携の重要性を再確認する機会となりました。(な)

●各大学があらためて存在意義を問われている激動の時代に、創立30周年という節目を迎えました。兵庫教育大学の教育と研究が社会に果たしている大きな役割、素晴らしい在学生や教育界で活躍する卒業生・修了生たちのこと、そして本学がめざす将来像などを、本誌を通して発信する使命をこの節目にひしひしと感じています。「教育子午線」のバックナンバーは本学ウェブサイトhttp://www.hyogo-u.ac.jpでご覧いただけます。(に)

◎あなたの声をお聞かせください

「教育子午線」では、読者のみなさまの声を生かした誌面づくりをめざしています。はがきかメールでご意見、ご感想を寄せていただいた方には、オリジナル・シャープペンシルを進呈します。

●あて先:〒673-1494 兵庫県加東市下久米942-1

兵庫教育大学企画課広報・社会連携事務室

☎0795・44・2334 ☎0795・44・2009 ☎office-renkei-r@hyogo-u.ac.jp

教育子午線
Kyoiku-Shigosen

第18号 2008年10月発行
発行/兵庫教育大学 大学広報室
http://www.hyogo-u.ac.jp
編集協力/㈱神戸新聞総合印刷